

YAMAHA

GTS 1000A



OWNER'S MANUAL

4FE-28199-E0

**GTS1000A
OWNER'S MANUAL**

**(c)1993 by Yamaha Motor Co., Ltd.
1st Edition, October 1993**

**All rights reserved. Any reprinting or
unauthorized use without the written
permission of Yamaha Motor Co., Ltd.
is expressly prohibited.**

Printed in Japan

INTRODUCTION

YAMAHA GTS1000A ご購入おめでとうございます。このモデルは、YAMAHA のスポーツ、ツーリング、レーシングマシン製作の膨大な経験の集大成です。これは、この分野のリーダーとしてYAMAHA が作り出した、高度なクラフトマンシップと信頼性の代表作です。

このマニュアルには操作、点検、基本的な整備の方法が記載されています。もしバイクの操作や整備の方法についてわからないことがあれば、YAMAHA のディーラーにお問い合わせください。

重要な情報についてはこのマニュアルでは次のような表示で記述しています。



この安全注意アイコンは、「あなたの安全に関するので注意してください」という意味です。



この WARNING に続く説明は、失敗によって操縦者や付近に居る人、または修理中の人間を重大な傷害または死に至らしめる可能性があることを示します。

CAUTION:

CAUTION はバイクをダメージから守るために特別な注意が必要であることを示します。

NOTE:

NOTE は手順をより簡単で明解に行うための情報を提供します。

NOTE: _____

このマニュアルはたとえこのバイクが後に売られたとしても、永久にこのバイクの一部として残されることを考慮しています。

NOTE: _____

YAMAHA は継続的に製品のデザインと品質の向上に努めています。そのため、このマニュアルには印刷可能な最も新しい製品の情報が掲載されていますが、あなたのマシンとマニュアルの間に若干の違いがあるかもしれません。もしこのマニュアルの内容について疑問点がございましたら、ご購入の YAMAHA ディーラーにお問い合わせください。



WARNING _____

このバイクを操作する前にこのマニュアルを完全によく読んでください。

CONTENTS

あなたの安全のために.....	1-1	燃料レベル警告灯回路チェック.....	5-7
特徴の概要.....	2-1	冷却水温警告灯回路チェック.....	5-9
電子制御燃料噴射装置 (EFI)	2-2	EFI 警告灯回路チェック.....	5-11
触媒コンバーター	2-4	ABS 警告灯回路チェック.....	5-13
オメガ()型フレーム.....	2-5	速度計	5-14
片持スイングアームフロントサスペンション	2-6	回転数計	5-14
フロントオフセットホイール		燃料計	5-15
ノセンターディスク.....	2-7	デジタル時計.....	5-15
アンチロックブレーキシステム (ABS)	2-8	ハンドルバースイッチ.....	5-16
各部の名称.....	3-1	クラッチレバー	5-19
車両の識別.....	4-1	シフトペダル.....	5-19
識別番号記録.....	4-2	前ブレーキレバー.....	5-20
フレーム番号(スペイン仕様を除く).....	4-3	後ブレーキペダル.....	5-20
車両識別番号(スペイン仕様).....	4-3	燃料タンクキャップ.....	5-21
エンジン番号.....	4-4	ハンドルロック.....	5-23
操作機構.....	5-1	シート.....	5-24
メインスイッチ.....	5-2	ヘルメットホルダー.....	5-25
表示灯.....	5-3	小物入れ.....	5-25
オイルレベル警告灯回路チェック.....	5-5	サイドミラー.....	5-26
		サイドカバー.....	5-28
		トップカバー.....	5-29
		アンダーカウル.....	5-29

サイドカウル	5-30	操作と乗車上重要なポイント	7-1
前後ショックアブソーバー	5-32	エンジン始動	7-2
サイドスタンド	5-33	シフトチェンジ	7-5
サイドスタンド ノクラッチスイッチ動作チェック	5-34	推奨されるシフトポイント(スイス仕様のみ)	7-6
運行前点検	6-1	エンジンブレーキ	7-6
ブレーキ	6-4	駐車	7-8
ブレーキノクラッチフルード漏れ	6-5	定期保守点検と小修理	8-1
スロットルグリップ	6-6	車載工具	8-3
エンジンオイル	6-6	定期保守点検ノ潤滑	8-4
冷却水	6-7	締め付けトルク	8-7
チェーン	6-8	エンジンオイル	8-8
タイヤ	6-8	冷却装置	8-13
チューブレスタイヤとキャストホイール	6-13	電動ファン	8-18
取り付けノはめあい	6-15	エアフィルター	8-18
ライト・ランプ	6-15	アイドル調整	8-20
スイッチ	6-16	スロットルケーブル調整	8-21
燃料	6-16	バルブクリアランス調整	8-22
触媒コンバーター	6-18	点火プラグ点検	8-22
燃料タンクブリーザーホース	6-19	フロントブレーキレバー位置調整	8-24
		リヤブレーキ調整	8-24
		ブレーキランプスイッチ調整	8-25
		前後ブレーキパッド点検	8-26

ブレーキフルードレベル点検	8-26
ブレーキフルード交換	8-28
クラッチ調整	8-28
駆動チェーンたるみチェック	8-29
駆動チェーンたるみ調整	8-29
駆動チェーン潤滑	8-31
ケーブル点検と潤滑	8-31
スロットルケーブルとグリップの潤滑	8-32
ブレーキ・シフトペダル	8-32
ブレーキ・クラッチレバー	8-33
センター・サイドスタンド	8-33
リヤサスペンション	8-34
前後ショックアブソーバー	8-34
フロントサスペンション点検	8-35
フロントショックアブソーバー調整	8-36
リヤショックアブソーバー調整	8-38
推奨される前後ショックアブソーバー セッティングの組み合わせ	8-40
ステアリング点検	8-41
ホイールベアリング	8-41
バッテリー	8-42
バッテリーの保守	8-43

ヒューズ交換	8-44
ヘッドライトバルブ交換	8-45
テールライト ・リヤフラッシュライトバルブの交換	8-47
フロントフラッシュライトバルブの交換	8-48
前輪の取り外し	8-48
前輪の取り付け	8-51
後輪の取り外し	8-52
後輪の取り付け	8-54
トラブルシューティング	8-56
洗車・保管	9-1
A.洗車	9-2
B.保管	9-4
主要緒元	10-1

配線図

あなたの安全のために

自動二輪車やスクーターは魅力的な乗り物で、ライダーはものすごく自由な感じ受けます。最高の性能を確実に得るために、それらは常に正しく整備されていなければなりません。一方で、あなたは最善の運転をするために、ライダーとして確実に肉体的なコンディションを良好にしておかなければなりません。また、疲労を残していてもいけません。薬や麻薬、酒は乗車時には飲んでいてはなりません。飲酒は特に危険を負う可能性を上昇させます。たとえ少量の飲酒であっても危険です。適切な防護性のライディングウエアはちょうど車のシートベルトと同様に自動二輪車走行における安全の大部分を占めるものであり、良い皮革スーツとグローブ、頑強なブーツと良い品質できちんとフィットするヘルメットを身に付けることが理想的です。しかし、防護性の良い服は結果的に個々の安全の感覚を狂わせ、危険を感じる感覚も弱めてしまうことがあります。こうなると、より危険性も増し、スピードも出易くなりますので注意が必要です。特に雨天時にこのようなことが起きやすいです。ですから、よいライダーは危険を最小に抑えるために守りに徹して乗車するのです。

FEATURE OUTLINE

(特徴の概要)

電子制御燃料噴射装置(EFI)

EFI システムはエンジン燃焼室が最適な空燃比となるようにコンピュータを利用して燃料供給を制御するものです。これによって常に最良の燃焼状態が作りだされ、発進性を向上し、燃費を改善し、排ガス中の有害物質を減少させる一助となります。

作動の原理

- 燃料系

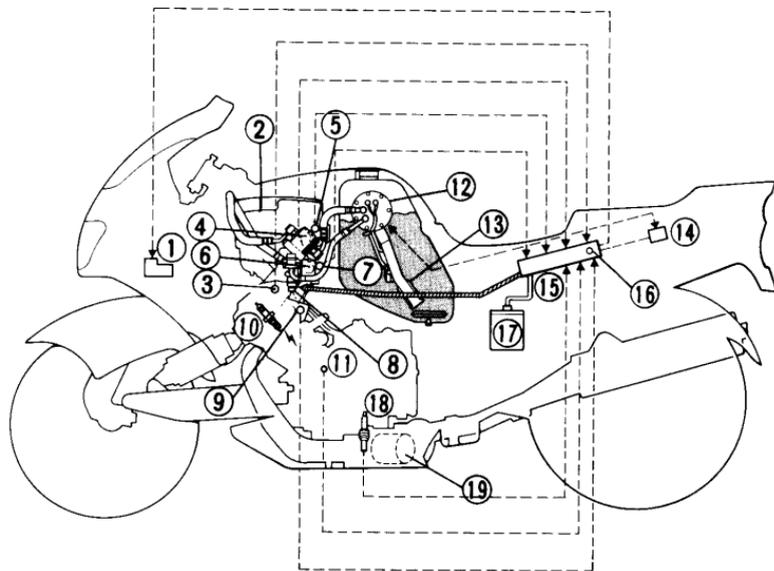
燃料はフィルターを介して燃料ポンプによりインジェクターに強制供給され、電子制御ユニット(ECU)からの信号によって吸気管に噴射されます。インジェクターにおける燃料の圧力は 2.55kg/cm^2 に保たれ、吸気管内の圧力よりも高くなっています。

- 点火系

点火系はイグニッションコイル、イグナイタ(ECUに組み込み)、点火プラグにより構成されています。ECUからの信号は点火プラグに電気火花を発生させ、点火します。

- 制御系

ECU は燃料噴射の周期、時間、その他を制御します。ECU は、吸気圧、スロットル、回転角の各センサーにより吸気量を測り、標準の噴射時間を計算します。さらに、水温、吸気温、加速減速度、大気圧、排気管内の酸素濃度等を各々のセンサーが検知します。標準の噴射時間はこれらに補正されて燃料噴射信号となりインジェクターに伝えられます。同様に、ECU は最適な点火タイミングとイグニッションコイルによる活性化時間を計算し、エンジンの要求に応えています。



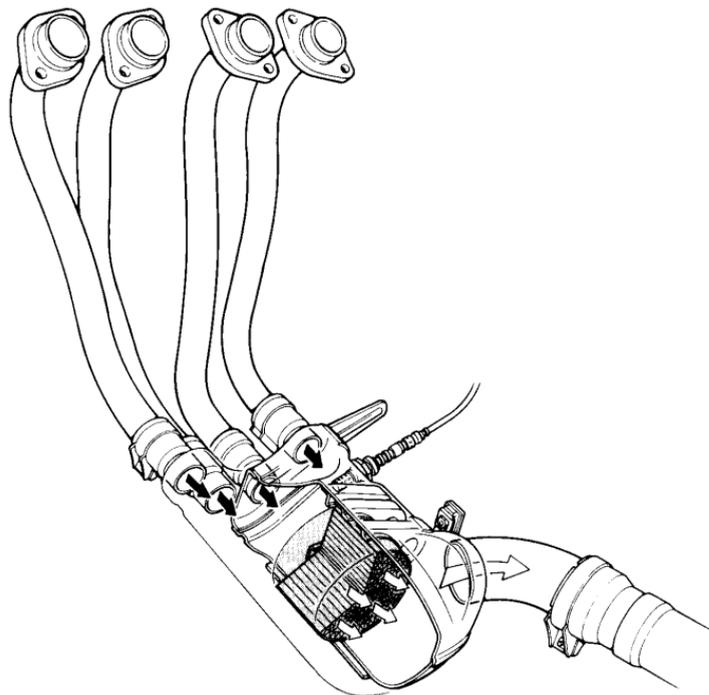
- 1. イグニッションコイル
- 2. エアクリーナーケース
- 3. シリンダーセンサー
- 4. 燃料フィルター
- 5. 吸気温度センサー
- 6. スロットルセンサー

- 7. 吸気管圧力センサー
- 8. インジェクター
- 9. 水温センサー
- 10. 点火プラグ
- 11. 回転角センサー
- 12. 燃料タンク

- 13. 燃料ポンプ
- 14. 燃料ポンプリレー
- 15. 電子制御ユニット(ECU)
- 16. 大気圧センサー
- 17. バッテリー
- 18. O₂ センサー
- 19. 触媒コンバーター

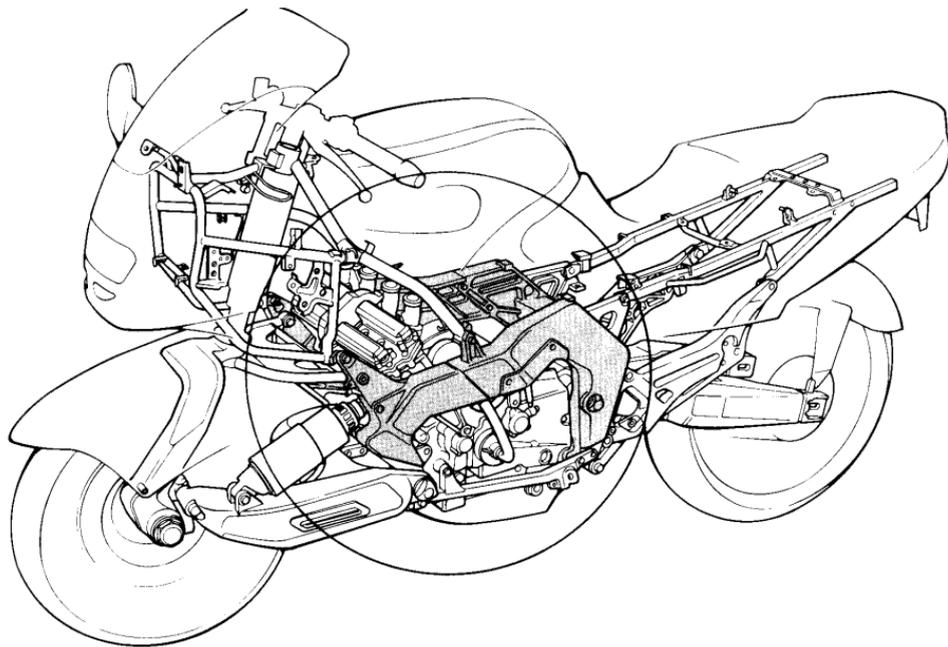
触媒コンバーター

三元触媒コンバーターは、EFI エンジンと連携することで排気による汚染を低減します。このコンバーターの特徴はステンレス製のハニカム構造で、長期間効果を持続します。



オメガ()型フレーム

オメガ型フレームは、オメガ型シャシコンセプトを基に採用されました。このフレームはフレームの強度メンバーとしてエンジンをリジッドマウントし、マシンの重心を低くします。高いフロントエンド剛性をもたらし、減速時の安定したマシン特性を生み出します。



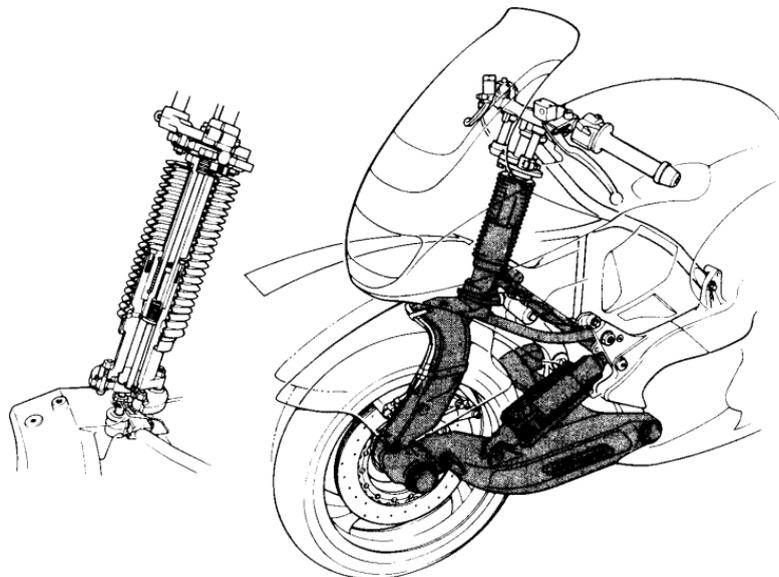
片持スイングアームフロントサスペンション

オメガ型フレームは全く新しいサスペンションシステムの採用によって実現しました。

このシステムはサスペンションとステアリングの機能を分離することにより、路面からのショックの吸収を滑らかにするサスペンションを実現しました。

このシステムのもう一つの長所として、ロアアームとアッパーアームの配置によってマシンのディメンション設計の自由度が生まれました。

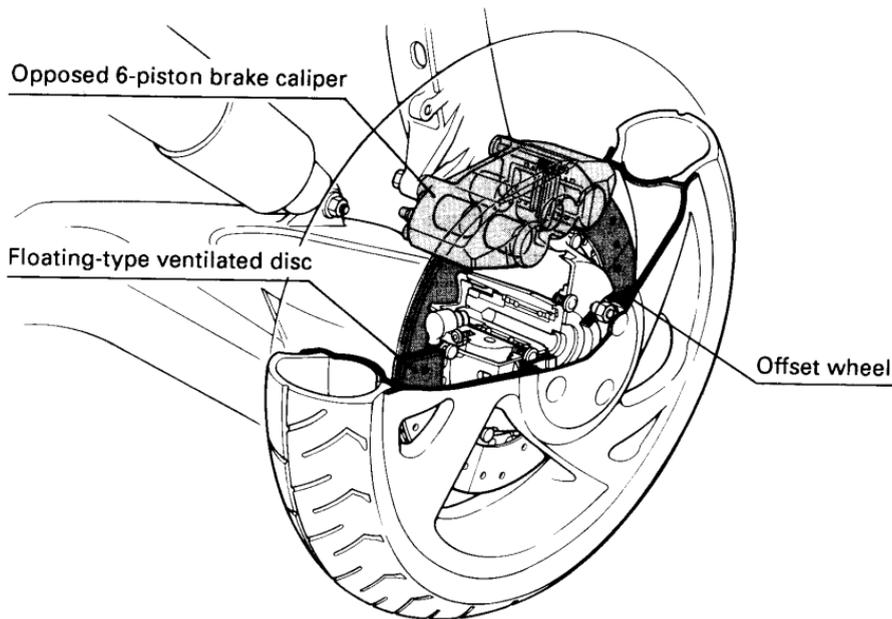
そして、アンチノーゾダイブジオメトリとの結合により、このモデルは安定した制動特性を持ちました。



フロントオフセットホイール / センターディスク

新設計されたオフセットホイールが片持スイングアームフロントサスペンションと共に採用されました。

また、フロントブレーキはホイールの中央に置かれ、より効率の良い冷却効果を得るためにフローティングタイプのベンチレーテッドディスクとし、ブレーキキャリパーは安定した制動力を得るために対向 6 ポットとしました。



アンチロックブレーキシステム (ABS)

ABS (Anti-lock Brake System) は、二つの制御デバイスをもつ電子制御システムによりフロントとリアを独立して制御するという特徴を持っています。これにより様々な気象条件下で生じる路面の変化においても緊急のブレーキ時において安全にホイールのロックをコントロールし、タイヤの本来の能力を引き出すことによって制動時の動きを滑らかにします。

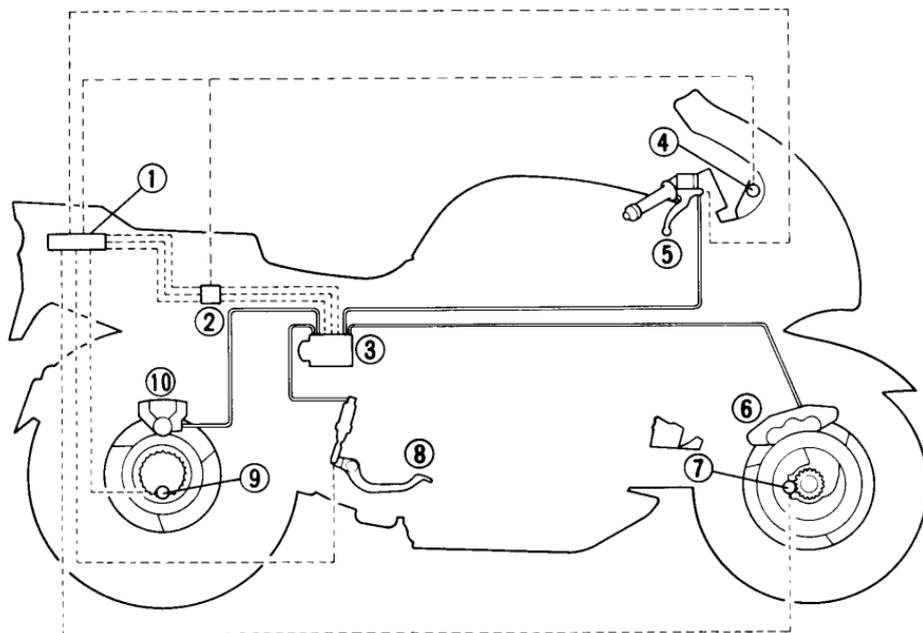
ABS は一般のブレーキと同様に、ブレーキレバーとブレーキペダルによって操作できます。

WARNING

- ABS は制動距離を短くするための装置ではありません。
- 路面の状態により(荒れた路面、未舗装路等)、ABS 付きのバイクは ABS が無い場合よりも制動に長い距離がかかる場合があります。交通の速度に合わせ、十分な車間距離を取りましょう。

NOTE:

ABS が作動している際にブレーキレバーやブレーキペダルから振動が感じられますが、これは異常ではありません。

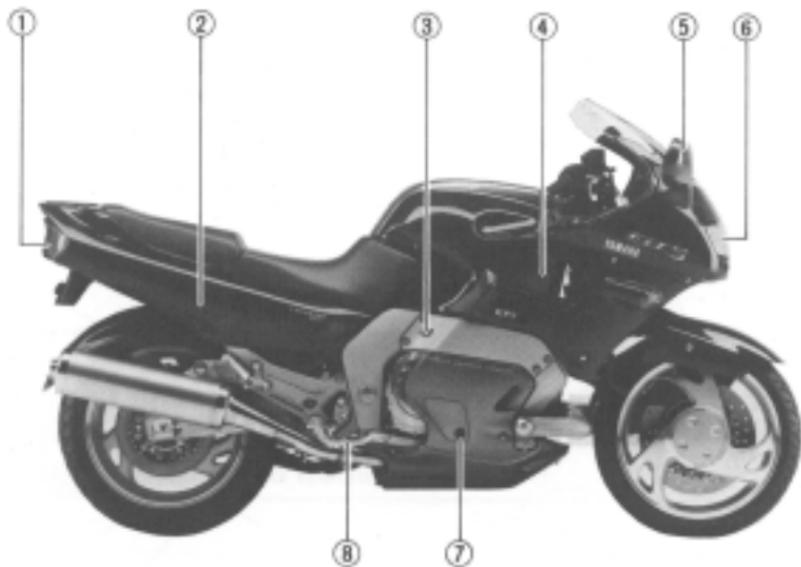


1. 電子制御ユニット(ECU)
2. リレーボックス
3. 油圧ユニット(HU)
4. 警告灯
5. フロントブレーキレバー

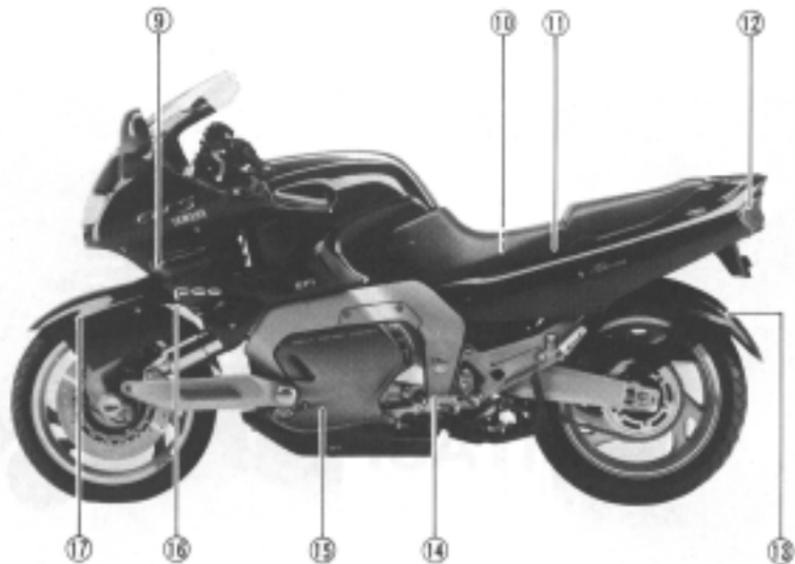
6. フロントブレーキキャリパー
7. センサー / センサーリング
8. リヤブレーキペダル
9. センサー / センサーリング
10. リヤブレーキキャリパー

DESCRIPTION

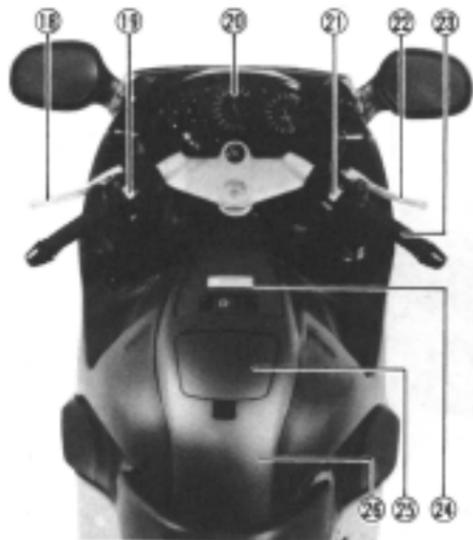
(各部の名称)



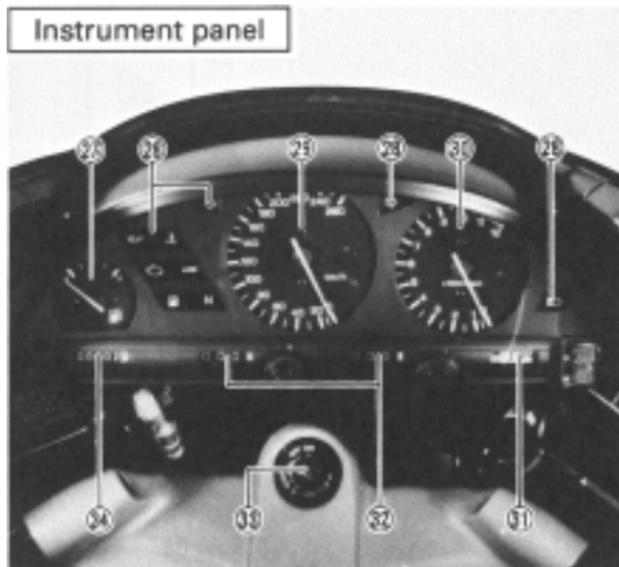
- | | |
|-----------------|------------|
| 1. 尾灯 / ブレーキライト | (8-47 ページ) |
| 2. サイドカバー | (5-28 ページ) |
| 3. アイドリング調整ネジ | (8-20 ページ) |
| 4. サイドカウリング | (5-30 ページ) |
| 5. ミラー | (5-26 ページ) |
| 6. 前照灯 | (8-45 ページ) |
| 7. オイルレベル窓 | (8-8 ページ) |
| 8. リヤブレーキペダル | (5-20 ページ) |



- | | |
|-----------------|------------|
| 9. フロントフラッシュライト | (8-48 ページ) |
| 10. ヘルメットホルダー | (5-25 ページ) |
| 11. シートロック | (5-24 ページ) |
| 12. リヤフラッシュライト | (8-47 ページ) |
| 13. リヤフェンダー | (8-52 ページ) |
| 14. シフトペダル | (5-19 ページ) |
| 15. ロアカウリング | (5-29 ページ) |
| 16. ラジエーター | (8-13 ページ) |
| 17. フロントフェンダー | (8-49 ページ) |



- 18. クラッチレバー (5-19 ページ)
- 19. ハンドルバースイッチ(左) (5-16 ページ)
- 20. インストゥルメントパネル (5-3 ページ)
- 21. ハンドルバースイッチ(右) (5-18 ページ)
- 22. フロントブレーキレバー (5-20 ページ)
- 23. スロットルグリップ (8-21 ページ)
- 24. 小物入れ (5-25 ページ)
- 25. 燃料口蓋 / 燃料タンクキャップ (5-21 ページ)
- 26. トップカバー (5-29 ページ)



- 27. 燃料計 (5-15 ページ)
- 28. 表示灯 (5-3 ページ)
- 29. 速度計 (5-14 ページ)
- 30. 回転数計 (5-14 ページ)
- 31. デジタル時計 (5-15 ページ)
- 32. ツイントリップメーター (5-14 ページ)
- 33. メインスイッチ (5-2 ページ)
- 34. 積算距離計 (5-14 ページ)

MOTORCYCLE IDENTIFICATION

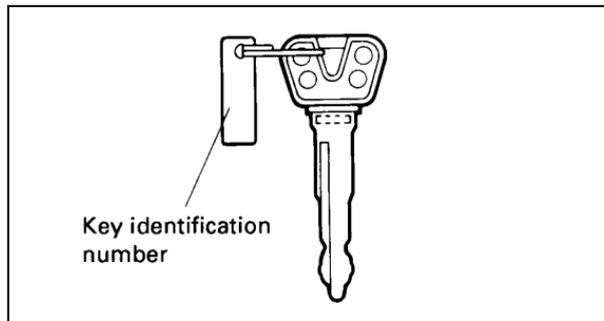
(車両の識別)

識別番号記録

1. キー識別番号:

2. 車両識別番号:
フレーム番号:

3. エンジン番号:



あなたのキー識別番号は図に示すようにキーに打刻されています。このナンバーを控えておき、新しいキーが必要な時に参照してください。

あなたの車両識別番号(またはフレーム番号)とエンジン番号を控えておき、部品を YAMAHA 販売店に発注する際に使用してください。また、車両が盗難にあった際に参照してください。

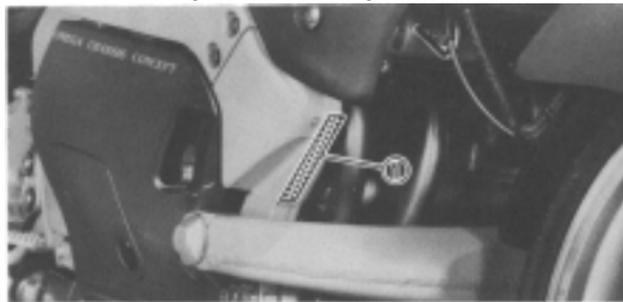
フレーム番号(スペイン仕様を除く)



1. フレームナンバー

フレーム番号はフレームに打刻されています。

車両識別番号(スペイン仕様)



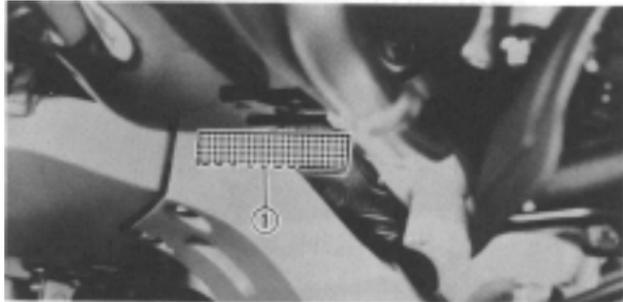
1. 車両識別番号

車両識別番号はフレームに打刻されています。

NOTE: _____

車両識別番号はあなたのバイクの識別と、あなたの国の認可当局への登録に使用されます。

エンジン番号



1. エンジンナンバー

エンジン番号はクランクケースに打刻されています。

NOTE: _____

この番号の最初の3文字はモデル識別記号です。続きの番号はユニットの製造番号です。この番号を控えておき、部品を YAMAHA 販売店に発注する際に使用してください。

CONTROL FUNCTIONS

(操作機構)

メインスイッチ



メインスイッチはイグニッションと照明系統の操作をします。操作の仕方は以下の通りです。

ON:

電気回路のスイッチが入ります。エンジンが始動できる状態です。この位置ではキーは抜くことができません。

OFF:

全電気回路はスイッチが切れています。この位置ではキーを抜くことができます。

LOCK:

この位置ではハンドルが固定されます。また電気回路のスイッチは切れます。キーは抜くことができます。操作方法は「ハンドルロック」の項(5-23 ページ)を参照してください。

表示灯



1. "TURN,, 表示灯
2. "NEUTRAL,, 表示灯
3. "HIGH BEAM,, 表示灯

◀▶ "TURN,, 表示灯 (イギリス仕様は橙色、イギリス仕様以外は緑色) :

この表示はターンスイッチが ON の時に点滅します。

◻ "N "NEUTRAL,, 表示灯 (緑色) :

この表示はギヤがニュートラルの時に点灯します。

◻ "HIGH BEAM,, 表示灯 (青色) :

この表示は前照灯がハイビームの時に点灯します。

P:

この位置ではハンドルは固定されます。尾灯と補助灯が点灯しますが、その他の電気回路のスイッチが切れています。キーは抜くことができます。

NOTE: _____

バイクから離れるときには常にメインスイッチを "OFF,, または "LOCK,, の位置にし、キーを抜くようにしてください。



1. "OIL LEVEL,, 警告灯

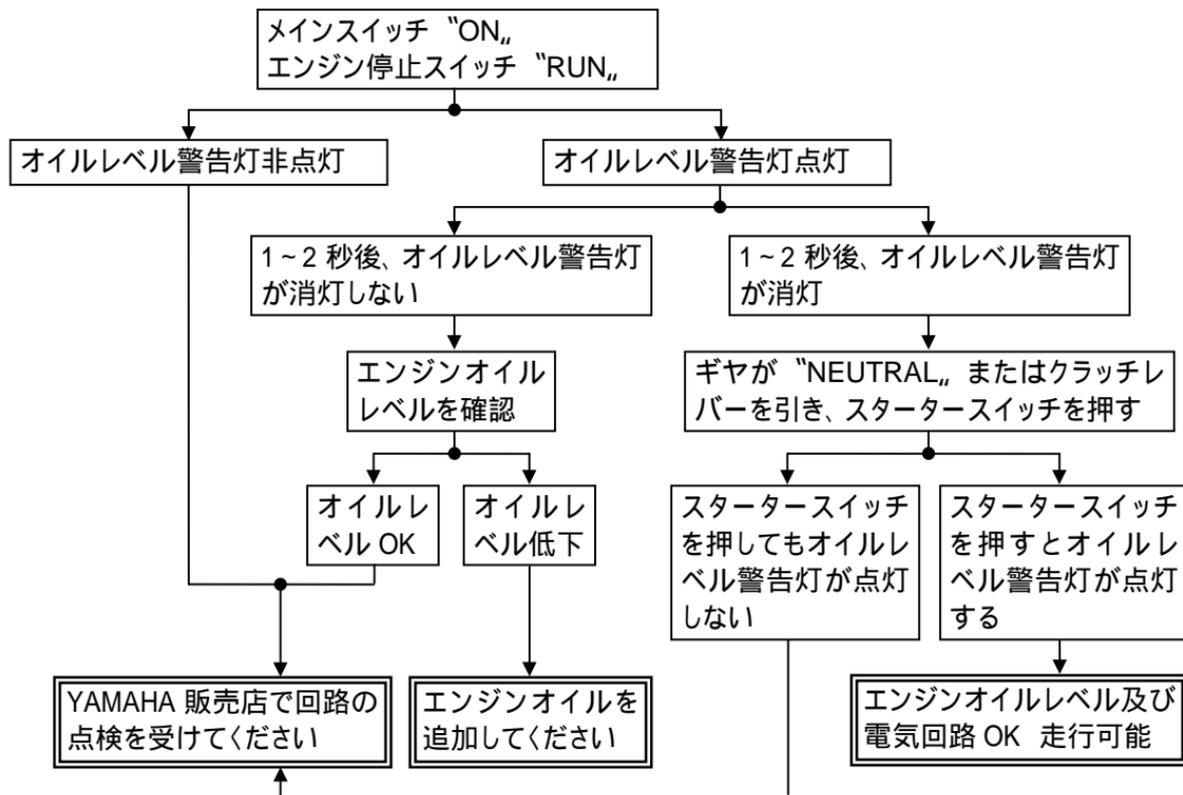
 "OIL LEVEL,, 警告灯(赤色):

この表示はオイルレベルが低下した時に点灯します。この表示回路は次の順序に従ってチェックできます。

CAUTION:

エンジンオイルの量が不十分な場合には走行しないで下さい。

オイルレベル警告回路チェック



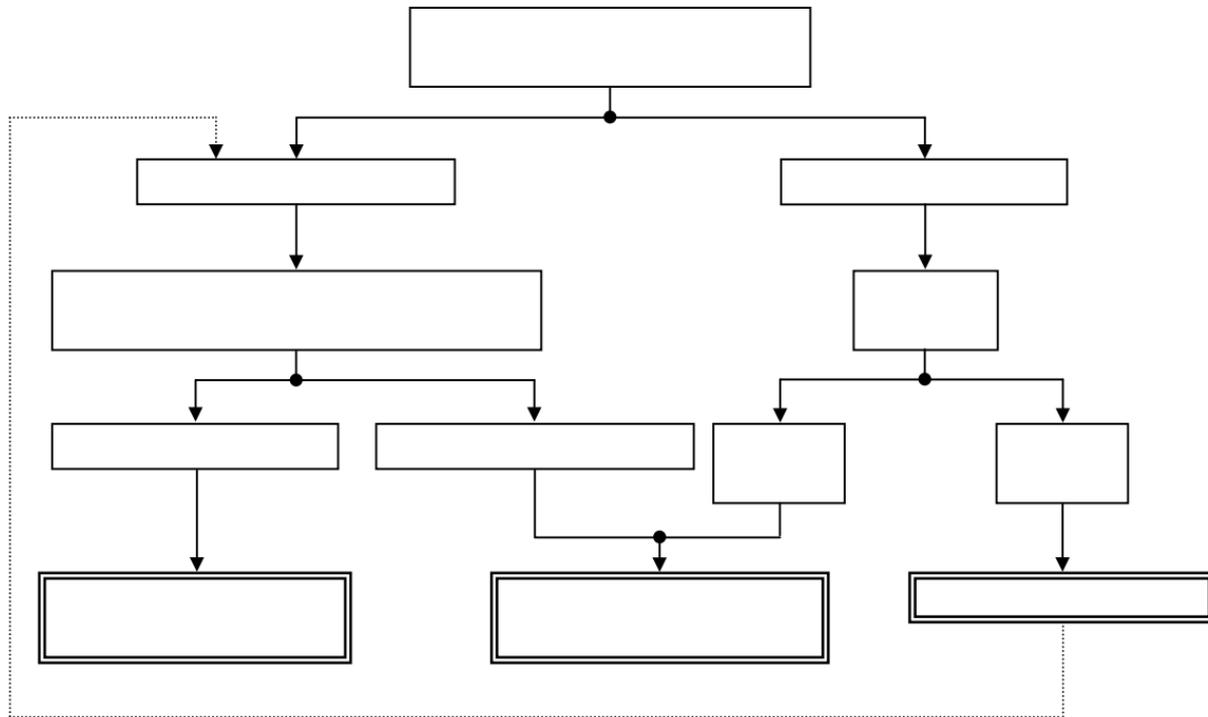


1. "FUEL LEVEL,, 警告灯

 "FUEL LEVEL,, 警告灯(赤色):

燃料の残量が約 3.5L (0.8 Imp gal, 0.9 US gal) 以下になるとこの警告灯が点灯します。この警告灯が点灯したら、できるだけ早く燃料を補給してください。

燃料残量警告回路チェック





1. "Coolant temp,, 警告灯

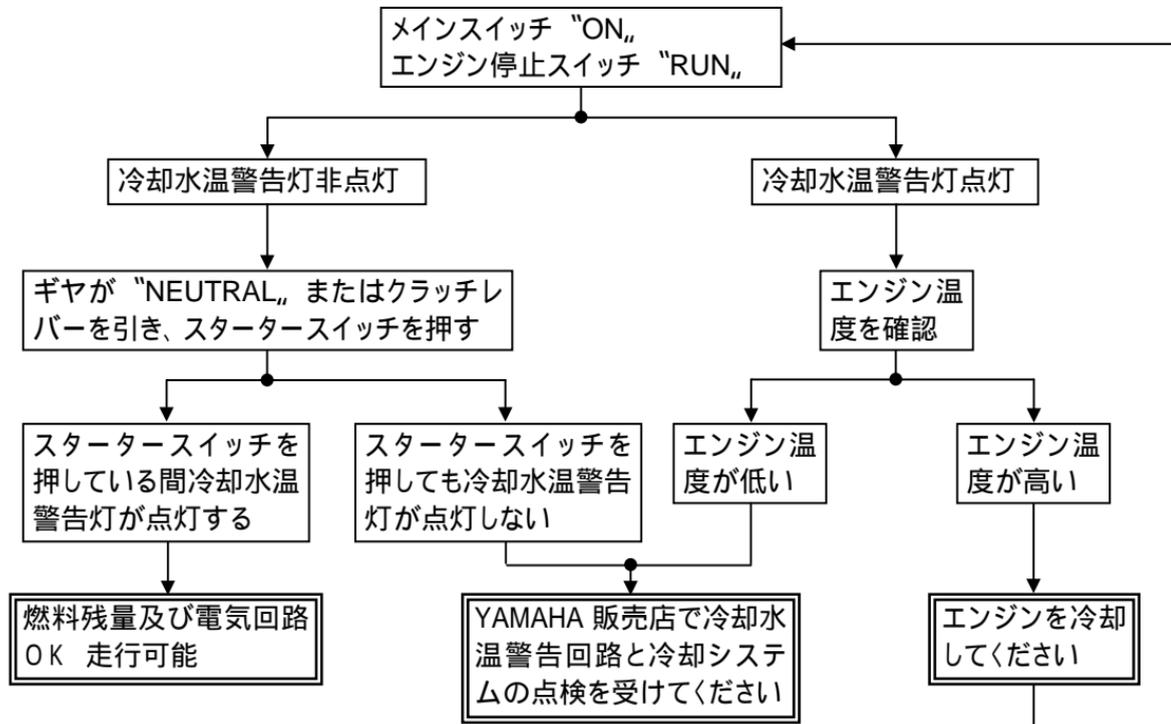
 "Coolant temp,, 警告灯(赤色):

この警告灯はエンジンがオーバーヒート(約 120)した場合に点灯します。この警告灯が点灯した時はすぐにエンジンを停止し、十分に冷えるまで待ってください。この表示回路は次の順序に従ってチェックできます。

CAUTION:

エンジンがオーバーヒートした時は走行を続けないで下さい。

冷却水温警告回路チェック





1. “EFI” 警告灯

 “EFI” 警告灯(橙色):

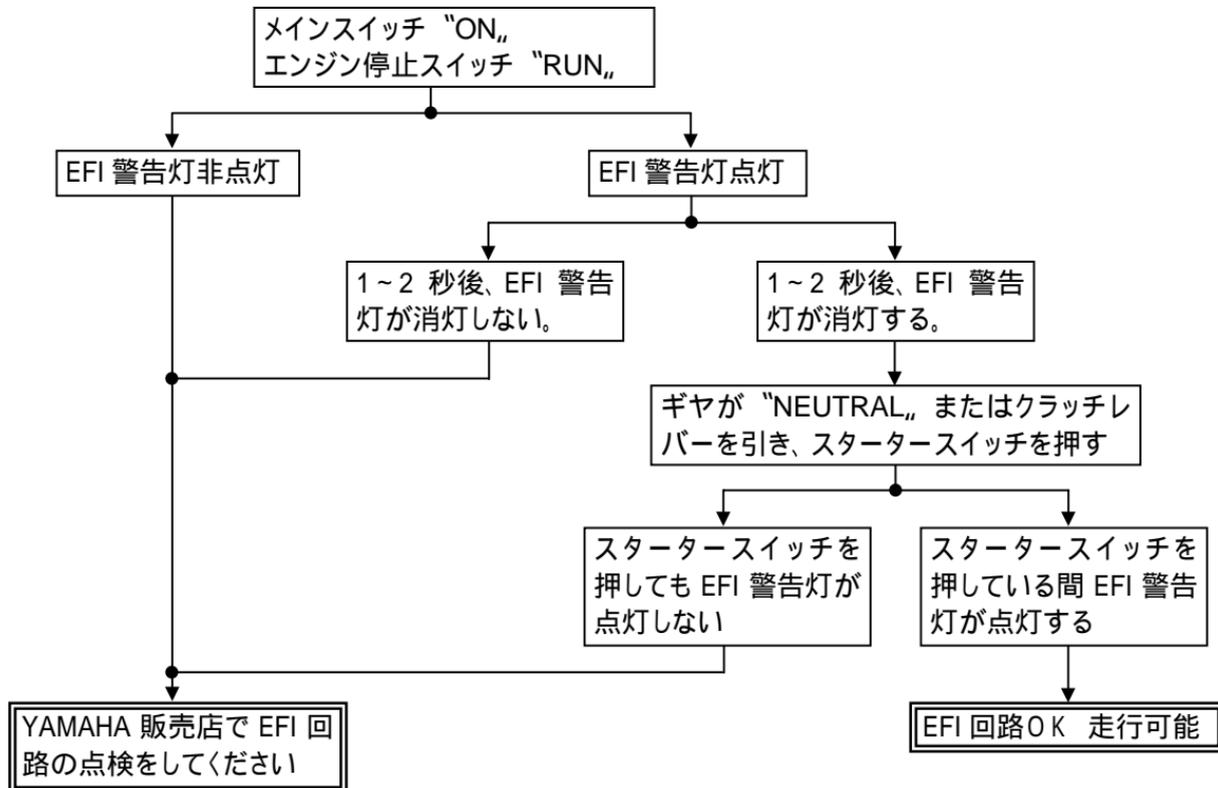
このモデルは電子制御燃料噴射装置(EFI)を装備しています。(2-2 ページを参照)

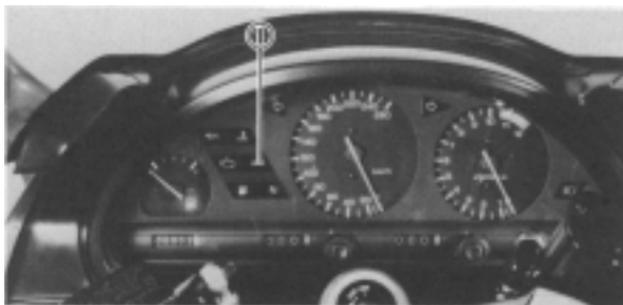
この警告灯が点灯した時は、EFI システムに異常が発生している可能性があります。YAMAHA 販売店にお問い合わせ下さい。この表示回路は次の順序に従ってチェックできます。

NOTE: _____

スタータースイッチを押している時にこの警告灯が点灯した場合は、メインスイッチを一度 “OFF” にしてから再度 “ON” にして下さい。以後も同様の症状が起り続ける場合には YAMAHA 販売店にて EFI 回路の点検を受けてください。

EFI 警告回路チェック





1. “ABS” 警告灯

 “ABS” 警告灯 (赤色):

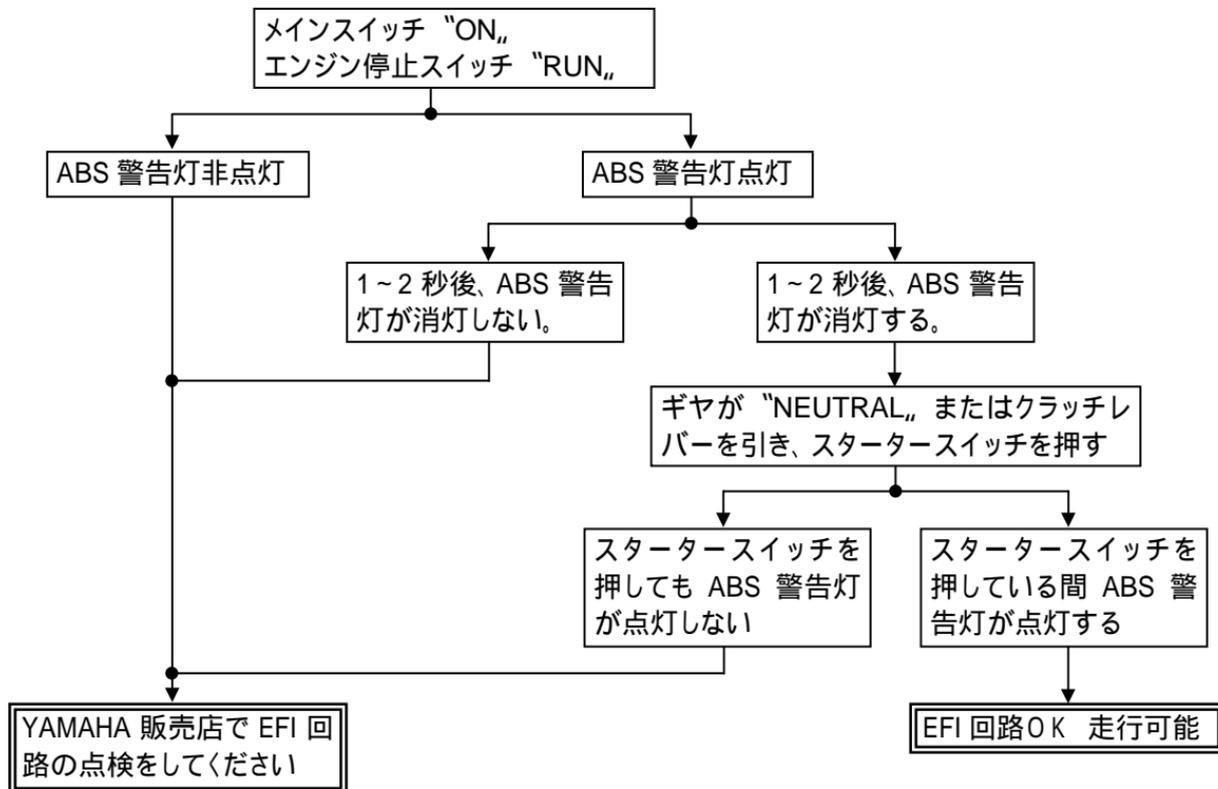
このモデルは ABS(アンチロックブレーキシステム)を装備しています。(2-8 ページを参照)

この警告灯が点滅または点灯した時は、ABS 回路に異常が発生している可能性があります。YAMAHA 販売店にお問い合わせ下さい。

 **WARNING**

ABS 警告灯が点灯している時はブレーキは通常のブレーキに戻っていますので、急ブレーキの際にはロックさせないように注意してください。

ABS 警告回路チェック



速度計



1. 速度計
2. 区間距離計
3. リセットスイッチ
4. 積算距離計

速度計は走行速度を示します。この速度計には積算距離計と2つの区間距離計がついています。区間距離計は各々のリセットボタンで“0.”に戻すことができます。片方の区間距離計は燃料系とともにあとどれだけ走れるかの判断にお使い下さい。燃料補給の計画に役立ちます。

回転数計



1. 回転数計
2. レッドゾーン

このモデルは電気式回転数計を装備しています。エンジン回転速度を監視し、理想的出力域を保つことができます。

CAUTION:

レッドゾーンまで回さないで下さい。
レッドゾーン: 10,500 r/min 以上

燃料計



1. 燃料計

このモデルは電気式燃料計を装備しており、燃料量を監視できます。針が「E」(空)の位置では、約 3.5L(0.8 Imp gal、0.9 US gal)残っていません。

デジタル時計



1. デジタル時計
2. 「H」(時間)スイッチ
3. 「M」(分)スイッチ

このデジタル時計はメインスイッチの位置に関わらず常に時刻を表示します。

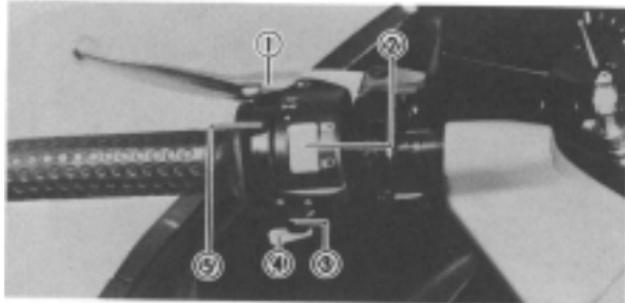
時刻設定:

1. メインスイッチを「ON」にします
2. 時間を設定するには「H」ボタンを押します
3. 分を設定するには「M」ボタンを押します

NOTE: _____

時刻設定後バッテリーが外される等電源供給がなくなると初期値の 1:00AM になります。

ハンドルバースイッチ



1. "PASS," スイッチ
2. "LIGHTS (Dimmer)," スイッチ
3. "TURN," スイッチ
4. "HORN," スイッチ
5. "LIGHTS," スイッチ

"PASS," スイッチ

パッシングライトを灯ける時に押してください。

"LIGHTS," (Dimmer) スイッチ

スイッチを "☰" に合わせるとハイビームになり、 "☷" に合わせるとロービームになります。

"TURN," スイッチ

右ウインカーを出す時はスイッチを "☞" の方へ押してください。左ウインカーを出す時はスイッチを "☜" の方へ押してください。

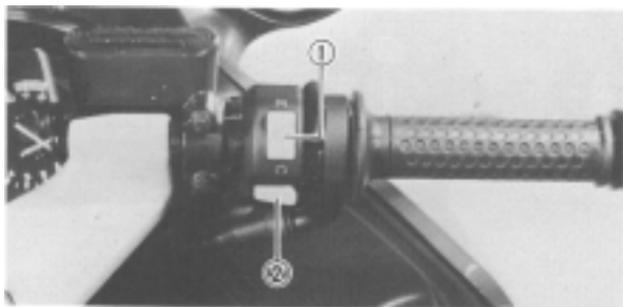
スイッチを離すとスイッチは中央に戻ります。ウインカーを消す時は中央に戻ったスイッチを押してください。

“HORN,, スイッチ

警笛を鳴らす時はこのスイッチを押してください。

“LIGHTS,, スイッチ

ライトスイッチを “” へ回すと、補助灯、尾灯、メーター灯が点灯します。また、“” へ回すとさらに前照灯が点灯します。



1. "ENGINE STOP," スイッチ 2. "START," スイッチ

"ENGINE STOP," スイッチ

エンジン停止スイッチは転倒時やスロットルシステムに異常が発生した時のような緊急時に使用する安全装置です。エンジンを始動するにはスイッチを "⤵" の方へ倒してください。緊急時にエンジンを停止するにはスイッチを "⊗" の方へ回してください。

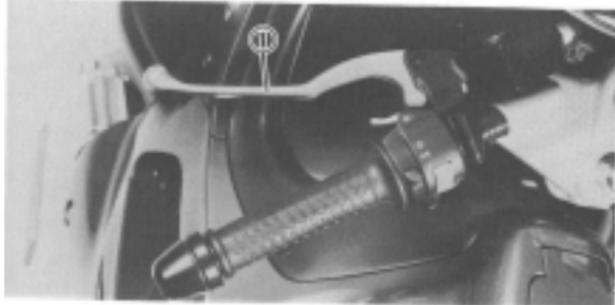
"START," スイッチ

スタータースイッチを押している間、セルモーターがエンジンを回します。

CAUTION:

エンジンを始動する前に始動に関する説明を読んでください。

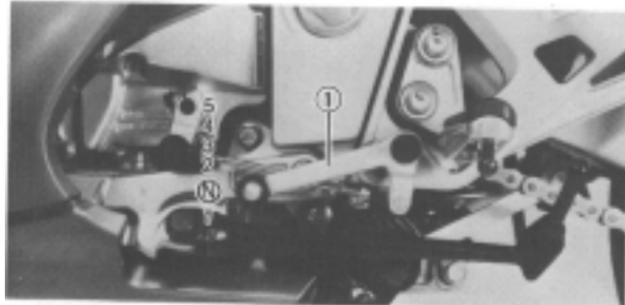
クラッチレバー



1. クラッチレバー

このモデルは油圧クラッチを装備しています。クラッチレバーは左ハンドルバーにあり、スタート回路カットオフスイッチがクラッチレバーホルダーに内蔵されています。クラッチレバーを引くとクラッチが切れ、レバーを離すとクラッチがつながります。クラッチを滑らかに操作するには、レバーを引く時は素早く、離す時はゆっくりと操作します。(スタート回路カットオフスイッチについてはエンジン始動手順を参照してください。)

シフトペダル



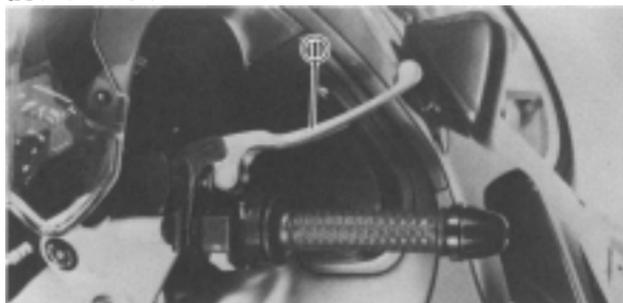
1. シフトペダル

N. ニュートラル

このバイクは常時噛合式 5 速ミッションを装備しています。

シフトペダルはエンジンの左側にあります。変速の際にはクラッチを併用します。

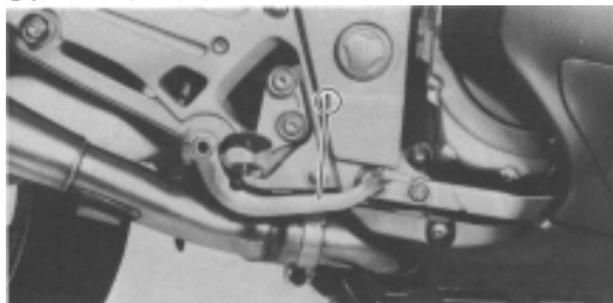
前ブレーキレバー



1. 前ブレーキレバー

前ブレーキレバーは右ハンドルバーにあります。前ブレーキを作動させるにはレバーを引いてください。前ブレーキレバーにはレバー位置調整機構が付いています。調整するには 8-24 ページを参照してください。

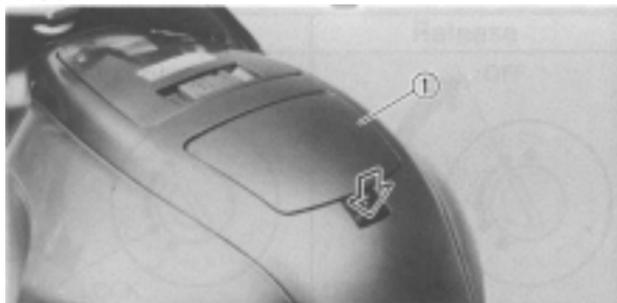
後ブレーキペダル



1. 後ブレーキペダル

後ブレーキペダルはバイクの右側にあります。後ブレーキを作動させるにはペダルを踏んでください。

燃料タンクキャップ



1. 燃料口蓋

開け方:

1. 燃料口蓋を開けるにはボタンを押してください。



1. ロック解除

2. キーを挿しこみ時計回りに 1/4 回転させてください。ロックがはずれキャップが開きます。

NOTE: _____

このタンクキャップはキーを挿していないと締めることができません。キャップが確実にロックされていないとキーは抜くことができません。



1. ロック

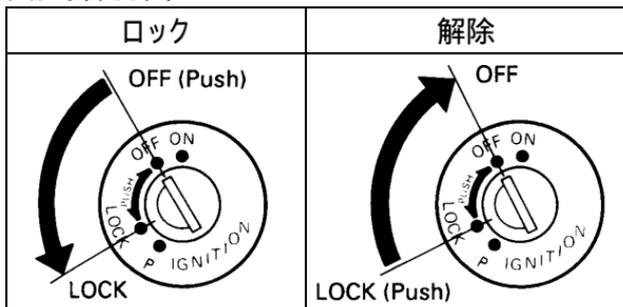
閉め方:

1. キーを挿してあるタンクキャップを燃料口押し込んでください。キーを抜くにはキーを反時計回り回し、元の位置に戻してください。
2. 燃料口蓋を閉めてください。

 **WARNING**

バイクに乗る前に必ずキャップが正しく閉められていることを確認してください。

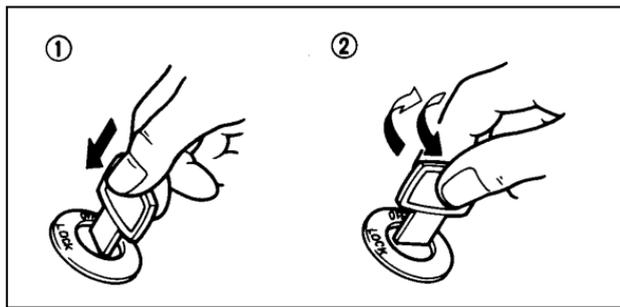
ハンドルロック



メインスイッチを“LOCK”の位置へ回すとハンドルが固定されます。ハンドルを固定するにはハンドルを右または左にいっぱいに切ってください。メインスイッチに挿したキーを押しながら“OFF”から“LOCK”に回し、キーを抜いてください。ロックを解除するにはキーを押しながら“OFF”まで回してください。

WARNING

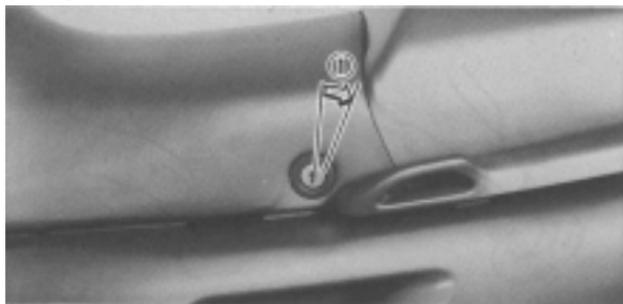
バイクが動いている時にキーを“LOCK”の位置へ回さないで下さい。



1. 押す

2. 回す

シート



1. ロック解除

シートを取外すには、鍵穴にキーを挿して時計回りに回してください。



シートを取付けるには、シート前部の爪をフレームとサイドカウルの受け口に差し込み、シートを下に押ししてください

NOTE: _____

シートが安全にはまっていることを確認してください。

ヘルメットホルダー

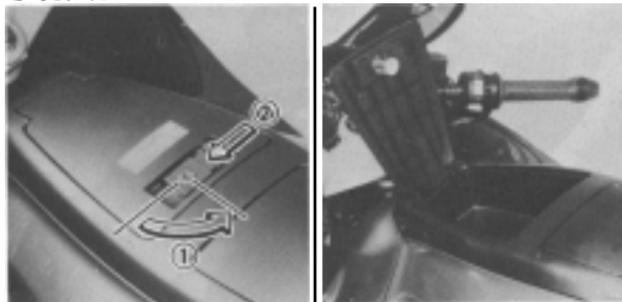


ヘルメットホルダーはシートの下にあります。シートを外してフックにヘルメットを掛け、再度シートを取り付けてロックしてください。

WARNING

決してヘルメットがヘルメットホルダーに掛かった状態で乗車しないで下さい。ヘルメットが何かに当たった際にコントロールを失い事故の原因となる可能性があります。

小物入れ



1. ロック解除
2. 押す

開け方:

1. キーを挿し反時計回りに 1/4 回転させ小物入れの蓋のロックを解除します。
2. ボタンを内側に押すと小物入れの蓋が開きます。

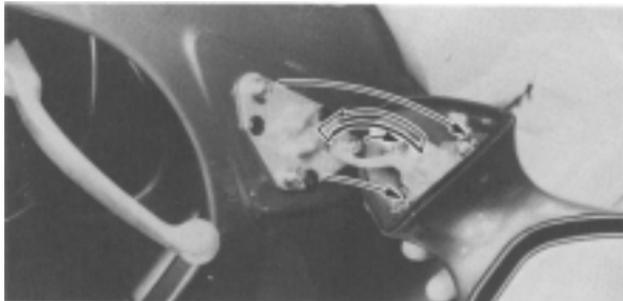
WARNING

最大積載量を越えて物を入れないで下さい。
最大積載量: 1 kg (2.2 lbs)

閉め方:

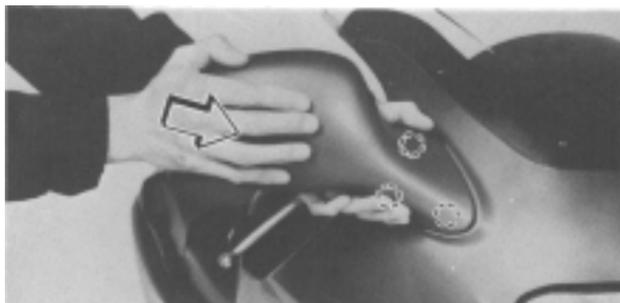
上記の操作を逆に行ってください。

サイドミラー



このバイクは着脱式ミラーを装備しています。これは衝撃や衝突により外れるように設計されています。ミラーは次の手順でマウントに装着することができます。

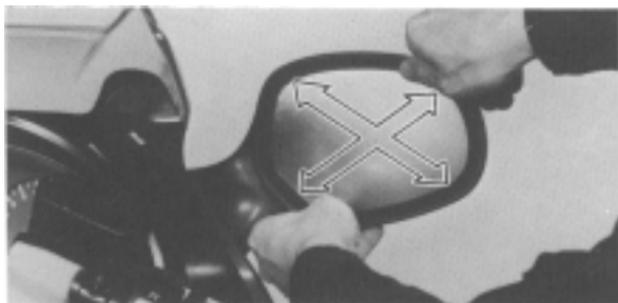
1. ミラーの留具を図に示すようにマウント上に合わせます。



2. 留具がしっかりとハマる音が聞こえるまでミラーを図に示す位置に強く押し付けます。

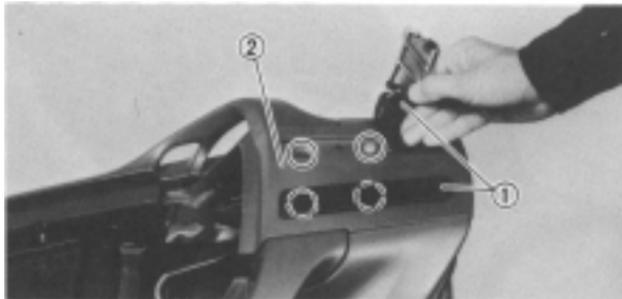
NOTE: _____

個々の留具ごとに押し付けると比較的簡単にミラーを装着することができます。



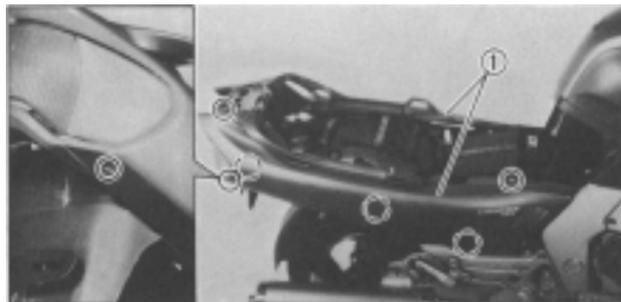
3. ミラーを調節するには図のようにミラーの縁を内側へ押します。

サイドカバー



1. モールド

2. テールカバー



3. サイドカバー

外し方:

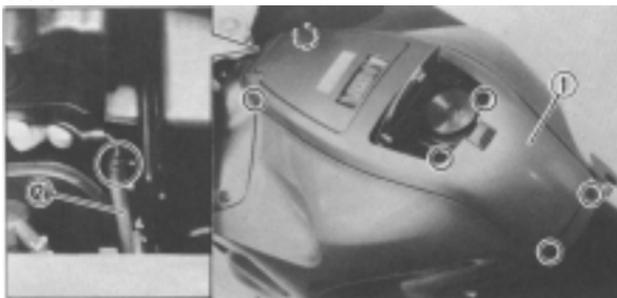
1. シートを外します。
2. モールドを外し、ネジを外してテールカバーを外します。

3. ネジを外して図に示す位置を外側に引きま
す。

取り付け方:

1. サイドカバーの突起をグロメットに挿しこみ、
ネジを締めます。
2. テールカバーを取りつけ、モールドをはめ込
みます。
3. シートを取り付けます。

トップカバー

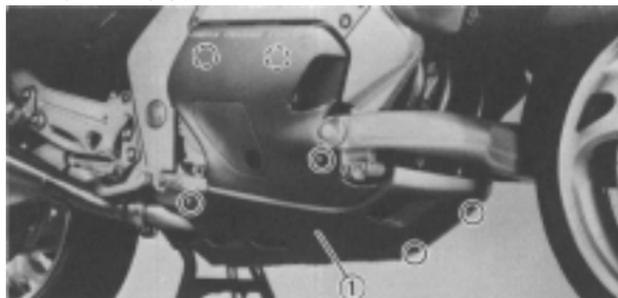


1. トップカバー

2. ドレンホース

1. シートを外します。
2. 留めネジを外します。
3. 燃料タンクキャップを外します。
4. 燃料ドレンホースを抜き、トップカバーを外します。
5. トップカバーを取り付けるときは、取り外しの逆の手順を行ってください。

アンダーカウル

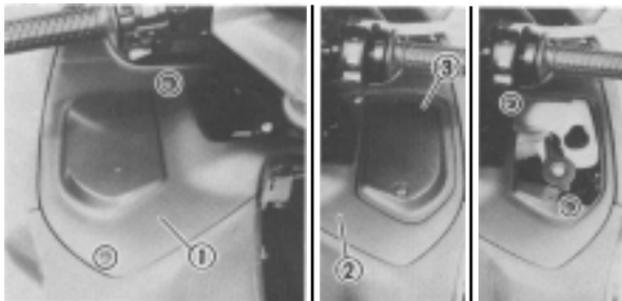


1. アンダーカウル

アンダーカウルを外すには、ネジを外して図に示す位置を外側へ引いて下さい。

取り付けは上記の逆の手順です。

サイドカウル



1. インナーパネル(左)

2. インナーパネル(右)

3. リザーバタンク蓋



3. フラッシュのリード線を外します。

1. シートとトップカバーを外します。
2. インナーパネルを外します。

NOTE: _____

右インナーパネルはリザーバタンク蓋を外した後に外すことができます。



4. 留めネジを外しサイドカウルを外します。

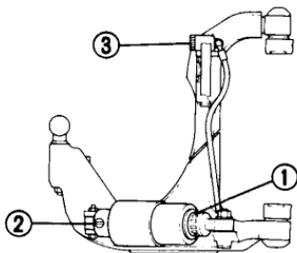


1. 燃料タンクブラケット

5. サイドカウルを取り付けるには、取り外しの逆の手順を行います。
以下のことに注意してください。
- サイドカウルのフックを燃料タンクブラケットに合わせる。
 - フラッシュのリード線を接続する。

前後ショックアブソーバー

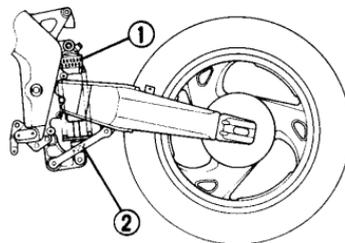
前



1. スプリングプリロードアジャスター
2. リバウンドダンピングフォースアジャスター
3. コンプレッションダンピングフォースアジャスター

前後ショックアブソーバーのスプリングプリロードとダンピングフォースはライダーの好みやバイクへの荷重(ex: オプションアクセサリ他)、また路面の状態に合わせて調整できます。正しい調整手順は 8-36 ページを参照してください。

後



1. スプリングプリロードアジャスター
2. ダンピングフォースアジャスター

サイドスタンド



1. サイドスタンドスイッチ

このモデルはイグニッションカットオフシステムを装備しています。サイドスタンドが下がった状態ではバイクは動きません。サイドスタンドはフレームの左側にあります。(このシステムの説明は 7-2 ページを参照してください。)

WARNING

サイドスタンドが立った状態でこのバイクに乗車しないで下さい。スタンドが正しく引込まれなかった場合、スタンドが地面に接触しコントロールを

失う可能性があります。YAMAHA はこのバイクにロックアウトシステムを装備するよう設計し、**運転者が責任を持ってサイドスタンドが引込めることを補助するようにしました。後に記された動作説明をよく確認し、何か故障が示された時には YAMAHA 販売店で速やかに修理してください。**

サイドスタンド・クラッチスイッチ動作チェック

サイドスタンドスイッチとクラッチスイッチの動作を下記と対照してチェックしてください。

WARNING

この検査を行う際にはセンタースタンドを使用してください。

メインスイッチを "ON," にし、エンジン停止スイッチを "RUN," にします。

ギヤを入れ、サイドスタンドを引込みます。

クラッチレバーを引き、スタータースイッチを押します。

エンジンがかかります。

クラッチスイッチは正常です。

サイドスタンドを立てます。

エンジンが止まります。

サイドスタンドスイッチは正常です。

WARNING

操作が記述通りにならない場合は YAMAHA 販売店にお問い合わせください。

